



令和7年度 笠間小学校の教育（グランドデザイン）

本校の教育目標

自ら学び 思いやりの心をもつ たくましい児童の育成

かしこい子
【児童が、わかる楽しさを味わう】

思いやりのある子
【児童が、いっしょにつくる楽しさを味わう】

たくましい子
【児童が、できる楽しさを味わう】

【めざす学校像】

- ・「学校の元気」がみえる学校
- ・心の居場所がある温かみのある学校
- ・家庭や地域に愛される学校
- ・安全で安心して生活できる学校

【組織目標】

子供が主語の学校づくり、明日も行きたい学校づくり

笠間小の学校生活をみんな（児童と教職員）でつくるキーワード
「あいさつ・あとしまつ・ありがとう」3あッ
+1「丁寧な言葉遣い」

【めざす教師像】

- ・「教師の元気」がみえる教師
- ・人（児童・保護者・同僚）の心に寄り添い、伴走できる教師
- ・教育のプロとしての矜持がある教師
- ・タイムマネジメントを意識した教師

【児童が、わかる楽しさを味わうために】

- ◎発表力を高める工夫
 - ・「相手意識」、「目を見て発表」
- ◎新しい学力観を踏まえた授業改善
 - ・指示型から伴走型の授業づくりへ
 - ・「子供が主語」の授業へ（させる→する）
 - ・一人一台端末を使った個別最適な学びと協働的・探究的な学びの実現
 - ・子供の心に火をつける学習課題の追究
 - ・習熟度別学習の推進
- ◎主体的・対話的で深い学びの実践
 - ・体験活動の重視
 - 学び＝知識×気づき×体験
- ◎地域の教育資源を生かした指導の充実
 - ・学校運営協議会を活用し地域の方を活用した授業の実践
- ◎SDGsの視点に立った特色ある取り組みの実践（防災教育・総合的な学習）

【児童が、いっしょにつくる楽しさを味わうために】

- ◎絆づくりと居場所づくり
 - ・校内フリースクールの効果的運用
 - ・児童が推進する「3あッ」+1
- ◎心に響く道德教育の推進
 - ・道德の学びを学校文化に（交流道德の実践）
- ◎一人一人を大切にする指導
 - ・一人一人に応じた指導や支援
 - ・いじめや虐待等早期発見・早期対応
 - 見守り体制の確立
- ◎学校や地域に誇りや愛着をもつ心の醸成
 - ・地域の人・もの・ことの積極的な活用
 - ・校内環境づくり
- ◎感染症対策の中での温かな学級学年経営
 - ・生活における感染症対策の徹底
- ◎地域社会を大切にする教育の推進
 - ・地域での体験活動の実施

【児童が、できる楽しさを味わうために】

- ◎学校が楽しいと感じ、明日も行きたいと感じる児童の育成
 - ・安全な登下校の指導（見える化）
 - ・決まりよい学校生活の指導
 - ・不登校や不応への組織的な対応
- ◎自分のことは自分でできる児童の育成
 - ・発達段階に応じた日常生活力の育成
- ◎体育活動の充実
 - ・運動量の増加
 - ・技能の定着（できるようにする）
- ◎遊びの中での体力向上
 - ・休み時間の外遊びの奨励
 - ・運動量の確保
 - ・業間運動の工夫
- ◎夢や目標を語れる児童の育成
 - ・夢や目標を意識する場の工夫や取組

【3年間のスパンで取り組む学校課題】

- ☆ 主体的・対話的で深い学びの実現・・・学力の向上を目指した授業づくり
- ☆ 笠間中学校との小中一貫教育の推進・・・9年間を通した指導体制や指導方法の構築と教育活動の推進
- ☆ 教職員の働き方改革の推進・・・市教委と連携した構造改革

【喫緊の教育課題3題について】

- 1 服務規律の確保に向けた取組
 - ・学校コンプライアンスに係る計画的・効果的な研修の推進
 - ・信頼し合い、高め合い、助け合える教師集団づくり
 - ・外部人材の積極的な活用
- 2 教職員の育成
 - ・ICTを活用した授業づくりを視点とした研修の充実
 - ・ブロック別グループ目標の設定
 - ・積極的な授業公開による日常的な研修の充実
- 3 保幼小の接続に関する取組
 - ・スタートカリキュラムの活用
 - ・教職員同士や児童と幼児の交流活動の促進

【グループ目標】

- <チーム低学年>
 - ・自分で考え、行動することができる児童の育成
- <チーム中学年>
 - ・自分の思いや考えをもち、進んで行動できる児童の育成
- <チーム高学年>
 - ・目的に応じて自分で考え、適切に行動できる児童の育成
- <チーム特別支援>
 - ・自立と社会参加に向けて、自分の考えを表現できる児童の育成
- <チーム教務部>
 - ・児童が活躍する場面・居場所づくりを支える体制をつくる